

平成21年度

横浜市立高等学校学校評価

第三者評価書

横浜市立高等学校評価委員会

はじめに

横浜市立高等学校は、学校ごとにマニフェストを策定し、市民から信頼が得られ、期待に応えることができるよう、魅力ある、特色ある高校づくりに取り組んでいます。

魅力ある、特色ある高校づくりを進めていくうえでは、自己評価を中心とする学校評価が大変重要となりますが、この学校評価をより有効に実施するためには、自己評価を柱とするP-D-C-A(Plan-Do-Check-Action)マネジメント・サイクルを確立するとともに、各高校の自己評価と自己改善を高めることができるよう、学校関係者評価及び第三者評価を組み合わせて行うことが必要となります。

特に、学校に直接かわりをもたない第三者による客観的・専門的評価を行うことで、学校の自己評価の精度を高めることが期待できます。

高等学校は義務教育とは異なり、入学者選抜を通して、生徒や保護者から選択される必要があり、この第三者による客観的評価は、選択されるための信頼を確保する1つの指標になるものと考えます。

「第三者評価を活用した学校評価」の手法として、学校から提出された自己評価書や評価結果のまとめなどの書類調査、そして、直接に学校を訪問し、朝の登校風景から夕方の部活終了時まで、授業参観や管理職からのヒアリング、生徒インタビュー等の調査を実施しました。

この第三者評価書は、その結果をもとにした評価をとりまとめ、作成しています。

本高等学校評価委員会での評価結果を基に、各学校の教育活動及び学校運営が効果的に改善され、さらに、横浜市立高等学校全体が魅力ある、特色ある高校となることを期待しています。

平成21年9月

横浜市立高等学校評価委員会 委員長
玉川大学教職大学院教授 小松 郁夫

目 次

I 訪問調査校

- 1 横浜市立みなと総合高等学校 1
- 2 横浜市立横浜商業高等学校 5
- 3 横浜市立戸塚高等学校 11

II 書類調査校

- 1 横浜市立桜丘高等学校 15
- 2 横浜市立横浜総合高等学校 16
- 3 横浜市立鶴見工業高等学校 17
- 4 横浜市立金沢高等学校 18
- 5 横浜市立南高等学校 19
- 6 横浜市立横浜商業高等学校別科 20
- 7 横浜市立東高等学校 21
- 8 横浜市立戸塚高等学校定時制 22

III 参考

- 1 横浜市立高等学校評価の体系図 23
- 2 横浜市立高等学校評価委員会委員構成 23
- 3 訪問調査・書類調査担当校一覧 24

I 訪問調査校

1 横浜市立みなと総合高等学校(訪問調査日:平成21年6月18日)

みなと総合高等学校の概要

創 立：平成14年4月

住 所：横浜市中区山下町231

学 校 長：浅見 敏雄

課 程 等：単位制による全日制の課程 総合学科

クラス数：18クラス

生 徒 数：711人(男子170人、女子541人)平成21年5月1日現在

■ 大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□教育課程の状況

単位制総合学科の特徴を生かし、教育目標達成のためのカリキュラムが系列ごとに工夫され、ガイダンスの充実も図られている。生徒のより適切な授業選択の支援等については更なる徹底が望まれる。また今後、「総合学科」のあるべき特性に対し、生徒・保護者からのニーズによる大学進学に重点を置く教育課程の状況をどのように理解すべきか、学校の目標設定の明確化が求められる。

□教科指導の状況

多くのユニークな授業科目の配置、専任だけでなく外部講師の活用、多数のパソコンの設置など着目すべき点が多い。少人数授業や習熟度別授業など適切に運営されているにもかかわらず、このような点が、生徒・保護者の評価では十分に反映されていない。

□進路指導の状況

進路オリエンテーション、保護者説明会等を精力的に行っている。大学等への推薦入試については、推薦基準の成文化等の必要性が認識されている。就職については、厳しい現状もあるが、進路指導部としての取組はしっかりしており、適切な指導がなされている。

□特別活動・部活動の状況

生徒会活動の活発化、新入生歓迎会、送別会、体育祭、文化祭などの学校行事の開催、朝のホームルームの導入などにより、活発な活動へ向けての配慮がなされ、また、進行している。施設面の問題があり、特に運動系の部活動への入部率は必ずしも高くないが、参加者は熱心に、自主的に取り組んでいる。

小項目2 生徒の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□生徒指導・教育相談の状況

生徒のほとんどが素直な性向であるが、何らかの不安や問題を抱えている者も少なくない。今後ますます、学習や生活の上での悩みなどメンタルヘルス面での生徒支援が大切になってくると思われるが、すでに生徒理解研修、担任とスクールカウンセラーや養護教諭を交えた情報交換会などを充実させ、生徒の問題を早期に発見するよう努力している様子が伺えた。

□保健管理の状況

けがは多くなく、疾病も普通の状態のようだが、保健室に相談に訪れる生徒の数は多い。必ずしも身体的な問題に限らないが、養護教諭と担任との連携を密にするなど、生徒の心身の健康増進に努めている様子が伺える。

□環境教育の状況

校内にリサイクルステーションを設置して、分別収集を徹底し、ゴミの削減・資源のリサイクルについての認識向上と実践を図っており、評価できる取組である。また、生徒も美化委員会を中心として環境問題に取り組んでいる。すでに教科教育面での取組も行われているようであるが、一層の充実が望まれる。

■ 大項目2 学校経営の状況
小項目1 学校の管理運営等の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□教育目標の設定・実施状況

教育目標は明確に設定されており、単位制総合学科の特徴を踏まえ、その実現に向けた取組がなされている。今後さらに独自の教育目標を強いメッセージとして発信していく努力を期待したい。

□組織運営の状況

学校長や主任クラスの教職員のリーダーシップが適切に発揮されており、校内組織の効率を見直し、各種委員会等の整理統合を行うなど、組織運営改善について前向きな取組が見られる。

□教職員の資質向上に向けた取組状況

教職員の資質向上については、横浜市の研修に参加・各教科ごとの教科会での検討の取組が行われているが、全体的な体制作りには至っていない。今後教職員の資質向上に向けた、学校としての組織的な取組が期待される。

□教施設・設備の状況

施設内容としては、運動場が狭いなどの物理的制約はあるが、屋内プール・空調設備・食堂・生徒用のフリースペース・多目的ルームなど充実した環境となっている。施設のメンテナンス状況についても、外壁の汚れが目立つものの、概ね良好であるが、今後の長期的な維持修繕計画の立案が必要である。

□学校経理の状況

経理状況が公開されており、適正な経理が行われているため、特に問題ないと思われる。

□情報管理の状況

情報漏れを防ぐため、外部に接続されていないパソコンで成績処理を行ったり、ホームページをガイドラインに沿って作成運営するなど、情報管理には配慮がみられる。また、写真撮影についても、生徒の意向を入学時に確認するなど、個人情報保護にも配慮されている。さらには、個人情報保護と開かれた学校との間の問題は今後の課題として認識されている。

小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

保護者・地域住民等との連携協力の状況

保護者・地域住民等との連携協力の状況は平均的なものであるが、学校行事等の公開などについては努力が続けられている。

危機管理の状況

危機管理に関わるマニュアルが作成されていたり、校内巡回など精力的に行われている点は評価できる。

学校に関する情報公開の状況

しっかりとしたホームページの作成・公開がなされており、メール相談などの手立てが講じられている。また、各種学校行事等を通しての学校紹介や情報提供も行われている。

■ 学校の総合評価

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

単位制総合学科高校という特徴を生かし、教育目標の達成に向け、努力がなされている様子が伺えた。運動場が狭い・8階建ての校舎などの制約条件はあるが、温水プール・空調・広い食堂・豊富なフリースペースなど施設面においても、単位制総合学科における多くの自由選択授業によって生徒に空き時間が生じた際に活用されるなど、学校の事情に見合った機能を果たしていると評価することができる。また、多様な生徒への個別対応の重要性についても認識されており、さらに、実績ある国際交流プログラムに代表される、学校内外での課外活動にも力が注がれており、健全な若者の育成に貢献しようとする姿勢が評価できる。

2 横浜市立横浜商業高等学校(訪問調査日:平成21年6月19日)

横浜商業高等学校の概要

創 立 : 明治 15 年 3 月

住 所 : 横浜市南区南太田 2-30-1

学 校 長 : 大澤 寛

課 程 等 : 全日制の課程 商業科・国際学科

クラス数 : 商業科 18 クラス・国際学科 3 クラス

生徒数 : 827 人 (男子 312 人、女子 515 人) 平成 21 年 5 月 1 日現

■ 大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□教育課程の状況

商業科は実践的な商業科目が充実しており、横浜商業高校の大きな特色として、これからも大事にして欲しい。大教室での合同クラス授業である「総合実践」科目は、教員も生徒も相互啓発の効果があがっているように思う。また、「横浜を売り出そう」などの地域経済への関心を高める授業科目の設定も注目される。

国際学科は国際感覚とコミュニケーション能力の育成に力が注がれていて、将来国際社会に通用する人材の育成を目指した教育課程の編成となっている。生徒も積極的に授業参加をして教育効果が上がっているように思う。ただし、両学科相互の教育課程上の乗り入れが少なく、国際学科の併設・専門高校としての新たな取組としての期待には十分には応えられていない。今後、現在進められている教育課程全般の見直しの中で、複数学科設置の意義についても再度検討し、教育課程編成に反映していくことが求められる。

また、教職員の「教育目標を踏まえて編成されている」の評価は59%と低く、社会の変化や生徒のニーズに対応した科目設定・学習学年・内容を早急に見直す必要を感じている教職員が多く、新教育課程(2

5年度から年次進行)を先取りした編成を構築しなければならない。昨年度のこの結果を踏まえた取組を今年度すでに始めているとのことなので、今後の改革・改善を期待したい。

□教科指導の状況

生徒の学習への取組の様子は熱心であり、指導者もきちんと対応しようと努力している。授業の雰囲気が多様であるのが印象に残った。その理由はクラスの違いか、科目の違いか、指導力の違いか、にわかに見分けはつかないが、最近教員間の授業公開が盛んになってきたということなので、教員相互での啓発活動の拡大や、学校を挙げての研究授業の制度化・意見交換会等行い、多彩な個性に対応できる授業方法・内容の工夫・改善など今後の努力に期待したい。

また課題として、生徒が主体となる活動を充実させること、また、家庭学習の習慣が身につけていないというアンケート結果に対応するため、学ぶことの大切さを認識し、学ぶことによって成長したという実感をもとに、学ぶ意欲を高める取組を充実させることが望まれるほか、評価・評定基準について公開性を強化していくことが挙げられる。

□進路指導の状況

就職指導部専任担当が6名、進学指導部は8名と、充実した進路指導体制がとられている。特に、一生を左右する就職活動に関しては不況で就職状況に困難が予想されるなか、教職員の企業訪問を活発化する計画など、その努力は評価したい。進学希望者には個別相談の機会をもっと増やすことを望むと同時に、大学のオープンスクールに早くから参加するなど、生徒自身による情報収集を活発化する必要がある。大学へは推薦入学が多いと聞いたが、一般入試にチャレンジする生徒を増やす努力や、簿記を中心とした専門科目を武器に進学(4年制大学等)を推し進める指導をする体制を整える必要があるのではないかと。

□特別活動・部活動の状況

部活動が充実していると感じている保護者・生徒は多く、生徒の活動状況をみても意欲的であることが伺える。

また、学校行事の中でも特に学校祭は生徒の自主的な取組もすばらしいうえ、一万人を越える来場者数や地域からの主体的な参画があるなど特筆すべきものである。今後の課題としては、学校の体制として部活動の活性化を進めるため、横浜商業高校における部活動の意義を再度確認し、教職員の部活動指導への意欲を高めることが求められる。

小項目2 生徒の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□生徒指導・教育相談の状況

比較的自由な校風に生徒は満足しているが、生徒の一人ひとりの状況に応じた指導が行われているかどうかについては、訪問調査当日の生徒インタビューにおいて、教職員により対応が異なるという意見も聞かれたので、今後、学校としての取組が期待される。しかし、あいさつや時間を守るといった、社会生活上基本的に求められることの指導については、しっかりと取り組まれており、今後も、生徒に社会生活の場を意識させながら、継続した指導を行って欲しい。

□保健管理の状況

「生徒の健康管理を適切に行い、また、生徒の健康に関する意識を喚起している(72%)」と、教職員の評価はまずまずであるが、生徒の「学校はあなたの健康に気を配っていますか(53%)」、保護者の「生徒の健康や安全への配慮は十分である(55%)」と生徒・保護者への健康・安全の配慮のPR不足を感じるので、生活保健指導部が中心となり、生徒・保護者への健康・安全面の情報提供や気になる生徒への個別指導など、さらなる働きかけをして欲しい。

□環境教育の状況

生徒・保護者・教職員ともに「環境美化に対する意識」が60%台となっており、さらに日常における環境美化の徹底が促されると良いと思われる。福祉・観光を含め、環境を新たなビジネスと捉え、商業科目の中で独自の展開を検討中と聞き、今後の取組が楽しみである。

■ 大項目2 学校経営の状況

小項目1 学校の管理運営等の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□教育目標の設定・実施状況

教育目標は、大枠で両学科とも明解である。ただその具体化について、教職員の共通理解ができているかという点、アンケート結果では肯定的な意見は少なく、更なる共通理解が必要と考える教職員も多い。しかし、その反省のもと、年度当初、校長より細かな提案・説明がされ、今年度の改善が大きく進むものと思われる。

□組織運営の状況

改善を意識している教職員が多く、校務分掌組織や各種委員会組織の再構築及び人員配置の見直しが必要とされるが、ヒアリング調査の結果、今年度中には改善ができると思われる。また、教職員相互のコミュニケーションや信頼関係を高めていく努力がさらに望まれる。

□教職員の資質向上に向けた取組状況

教職員の資質向上の取組に対する調査項目の結果がやや低く、教職員間のコミュニケーションが、これまで以上に求められる。教員相互の研究授業計画、生徒指導・教育相談(カウンセリング手法等)の研修計画など、早急に行える強力な組織体制作りと、研修時間の確保など研修制度の一層の充実が望まれる。

□施設・設備の状況

恵まれた施設・設備を有し、その管理についてもしっかりと行われている。しかし、空調に関しては校舎の設計が空調設備を前提とした造りとなっているため、扇風機が設置されてはいたものの、風が行渡らない。また、野球グラウンドに関しても、水はけの悪さが課題となっている。

□学校経理の状況

学校予算検討委員会(公金・準公金管理委員会)を設け、公金・準公金の配分・取り扱いについて審議・検討され、適切に処理されていることが伺える。しかし、教職員のアンケートでは、「予算が適切に立てられ

ている(63%)」、「遅滞なく適正に執行されている(61%)」との結果も出ているため、予算編成のあり方や決定時期等については見直しが必要と感じられた。

□情報管理の状況

情報部6名の専任教職員がおり、校内ネットワークの管理、教育の情報化の推進、コンピュータなど情報機器の管理等の業務を担当し、個人情報の管理・指導等も適切に行っている。「個人情報の管理及び活用が適切である(教職員:63%)」に対して、「生徒の個人情報をきちんと保護している(保護者:67%)」となっており、保護者の評価はやや高い。パソコンの管理(立ち上げ時には個人パスワードの入力、席を離れるときのログオフなど)だけではなく、机上の個人情報の放置など、日常的な個人情報の管理には、引き続き十分な注意をお願いしたい。

小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□保護者・地域住民等との連携協力の状況

保護者や地域との連携の取組としては、わが街の学校づくり、学校祭での協力、おやじの会、ボランティアによる庭園整備などの取組が高く評価される。今後も、保護者へのさまざまな情報提供の方法の工夫など、連携活動の活性化を図って欲しい。また、地域との活動についても、「わがまちの学校づくり推進会議」の取組に象徴されるように、進んだ取組がなされている。今後、新たに生徒が主体的に地域とのかかわり合いの場作りや企画作りに参加できるよう、学校として支援していくことを期待したい。

□危機管理の状況

防犯対策として、防犯カメラが2か所と、相手の動きを封じ込める武具である、さすまたが設置されている。さらには、来校者への声掛けなど日頃から危機管理に対しての体制がとられている。さらに、いざという時のために、不審者侵入時の対応をマニュアル化して対応できるようにしておくこと、教職員の不審者対応のための実技研修などを実施して緊急事態に備えておくこと、保護者への安全管理に関わる資料の情報提供等に取り組んでいただきたい。

□学校に関する情報公開の状況

学校説明会や体験授業など、入学者選抜に関わるホームページが充実しているなど、情報公開への積極的姿勢が評価できる。今後も引き続き、保護者からさらなる信頼を得るために、日常の教育活動も含め、

積極的な情報公開を保って欲しいと考える。

■ 学校の総合評価

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

商業学校としての伝統に国際的なカラーがつけ加わり、魅力的な学校になっている。生徒は伸び伸びと学校生活を楽しんでおり、教職員も熱心に教育指導に取り組まれており、高く評価できる。また、生徒が生き生きと学習でき、活動できる場を積極的に提供し、生徒一人ひとりの活動をきめ細かく支援しようとしていることは大いに評価できる。

また、いくつか改善の必要はあると思われるが、学校長のリーダーシップの下、課題・問題意識が高く、昨年度の学校評価の反省から、すでに今年度取組を始めており、年度内の改善がかなり見込まれる。

ただし、商業科と国際学科の間に壁があるように思われることは気にかかる。各学科のカラーというのは必要で尊重されるべきだが、学科間の交流の活性化と積極的な連携を図ることによって、今後商業教育の将来をリードする学校としての存在価値を高めてもらいたい。

3 横浜市立戸塚高等学校(訪問調査日:平成21年7月3日)

戸塚高等学校の概要

創 立 : 昭和 3 年 4 月

住 所 : 横浜市戸塚区汲沢 2-27-1

学 校 長 : 大塚 宏

課 程 等 : 単位制による全日制の課程 普通科

クラス数 : 21 クラス

生 徒 数 : 830 人 (男子 325 人、女子 505 人) 平成 21 年 5 月 1 日現在

■ 大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□教育課程の状況

1 年次に必修教科があり、年次が上がるごとに教科を選択するという履修方法は、基礎学習をおさえ、年次段階に応じ生徒の学力伸張に適した方法であると思う。また、教科選択は、無理なく自分の目的などに合わせた選択ができるようになってきていると思う。

□教科指導の状況

授業中は生徒の私語もなく、教員の指導に集中する様子から、生徒が個々に目的を持ち、主体的に授業を受けているように感じた。授業間の 10 分の休み時間も、次の授業の準備・移動時間として使うことがしっかりと意識されており、始業のチャイムが鳴るときに廊下にいる生徒は一人もいない状況であった。各教員が子どもたちをひきつける授業作りに取り組んでいる様子は見受けられたが、訪問調査当日は講義方法の授業が多かったためか、生徒と教員のコミュニケーションがはかれる授業が少なかったように感じた。

□進路指導の状況

進路状況はここ数年いい結果をだしている。子ども達自身の意欲だけでは、出ない結果であるので、進路担当者の努力が後押しをしているのであろう。今後、戸塚高校としての進路の特色を期待したい。

□特別活動・部活動の状況

生徒たちが部活動の意義や目的を理解し、興味関心のある部活に自主的に取り組んでいた。活気が感じられ、真剣に取り組んでおり、素晴らしいと思う。

小項目2 生徒の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□生徒指導・教育相談の状況

最寄駅から学校までの通学路が大変狭いため、登下校時は道路の交通規制ができると良い。また、生徒の服装や頭髪に関しては、学校の基準に沿わない状態で登校する生徒も多少いるものの、大きな問題とはなっていない。学校としてすでに、自覚を高める中で内面の成長を図り、改善させていく指導に取り組んでいる。

□保健管理の状況

保健室の利用状況は、比較的決まった生徒の利用が多く、心のケアを含めた指導が必要である。また、健康や安全に対する学校の取組を生徒や保護者に一層周知していく必要がある。

□環境教育の状況

校内の環境美化に積極的に取り組んでいることは評価できる。ゴミの減量化やリサイクルに対する意識の向上にむけて、職員と生徒が一体となって取り組んでいくことを期待する。

■ 大項目2 学校経営の状況
小項目1 学校の管理運営等の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

□教育目標の設定・実施状況

教育目標については、具体性を持たせた内容であり、表現も平易なものとなっている。今後、共通理解を深め、目標実現に向けての具体的な取組の実施を期待する。

□組織運営の状況

適切な活動計画に沿って、おおむね円滑な活動が展開されている。人事異動に伴う業務の引継ぎや業務分担の見直し等によって、より円滑な業務運営を図る必要がある。

□教職員の資質向上に向けた取組状況

職員学習会が月一回定期的に行われているが、職員の共通理解と問題解決に向けて開催されているという実感が少ないことは課題である。学校としての研究・研修目標の設定が必要である。

□施設・設備の状況

施設の管理・活用状況はよく、全日制は2足制(校舎内で上履き使用)・定時制は1足制(上履きを使用しない)をとっているとは考えられないほど環境美化も適切に行われている。校舎内の清掃等、丁寧に行われており、ゴミ分別の意識付けもできている。しかし、エレベーターの中の掃除だけは、管理範囲が曖昧であり、行き届いていない。今後、管理範囲が曖昧にならないように注意して欲しい。

□学校経理の状況

学校における予算の編成・執行は適切に行われている。より一層の説明責任を果たすことが課題である。

□情報管理の状況

生徒・保護者に関わる個人情報に関しては、理解と承諾を得ながら進めているが、学校の取組に対して生徒・保護者に十分に伝わっていない現状がある。より一層の周知が望まれる。

小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

保護者・地域住民等との連携協力の状況

努力は感じられるが、市立高校としてのアナウンス・地域への開放・地域との連携など、取り組むべき活動や方法がまだまだあると感じる。さらなる取組に期待したい。

危機管理の状況

危機管理に対する学校としての様々な取組が行われているが、生徒の意識の向上に結びついていない面が見られる。生徒に対して、いかに自分のこととして受け止めさせるかという検討が必要である。

学校に関する情報公開の状況

現状は、良くもなく悪くもなく普通の状況だと思われる。今後、独自性を見出して欲しいと思う。

■ 学校の総合評価

評 価

| | | | |
|-------|----|--------|-----|
| 優れている | 良い | おおむね満足 | 要改善 |
|-------|----|--------|-----|

講 評

生徒たちの表情に活気があり、生き生きとした表情で活動している姿に多く出会うことができた。学業・部活動ともに意欲的に取り組んでおり、生徒たちの自己の思いを成し遂げ、充実した学校生活を送っている様子を感じ取ることができた。生徒の挨拶・誠実な態度・きちんと片付けられ管理されている個々の荷物・学校職員の生徒に対する態度など、数多く見られた素晴らしい面のなかで、エレベーターの清掃が行き届いていなかった点が残念であった。今後の改善を期待したい。生徒が戸塚高校生になってよかったと言うように、戸塚高校を訪問調査できてよかったと思える学校であった。この現状に甘んじることなく、より一層すばらしい学校になってほしいとの願いから、厳しい基準で評価した。子どもたちが自分に自信を持ち、仲間の大切さを忘れることなく、将来への希望を語るができるよう、よりよい指導を進めて欲しいと思う。

II 書類調査校

1 横浜市立桜丘高等学校(書類調査日:平成21年5月22日)

講 評

自己評価について

学校評価アンケートにおける教職員の回収率が100%、生徒全体の回収率が97%近くに達していることから、学校に対する愛着や深い思い入れを読み取ることができる。一方で、保護者アンケートの回収率は70%弱で、教職員・生徒の回収率との開きが見られる点が気になる。

大項目1 教育活動の状況

○教育課程の状況

学校教育目標の達成に向けて、教育課程編成、教科指導、進路指導等に精力的に取り組み、改善の努力をしていることが評価できる。また、選択科目の充実からも努力が見られる。生徒による学校評価の中で、「必要な科目や興味・関心を満たす科目が設定されている」の項目に対する肯定的な回答が80%を超えていることは、学校側の努力の現れといえる。

○進路指導の状況

生徒による学校評価のうち、進路指導の充実や学力伸長のための支援に対して肯定的な評価をする割合が低く、そこに進路指導における課題を感じる。進学状況などに反映される、いわゆる学力については、家庭での学習習慣の改善などにより向上を図る努力がさらに必要と思われる。それと同時に、学校の目指す生徒像が、いわゆる学力だけでなく総合的な資質や人格の育成であることをより強くアピールする方策についても検討を期待したい。

○特別活動・部活動の状況

運動系部活動が盛んであり、生徒の評価をみても充実感の高さが伺える。そこに学校運営に対する学校の努力が見て取れる。また、部活動の充実は生徒の調和的な発達や個性の尊重、自主的活動の促進にとって望ましいことであり、その意義も大きい。ただ、部活動の活性化に向けた教職員の共通意識の低さが課題である。部活動顧問だけでなく、学校全体で支援する体制づくりが求められる。

大項目2 学校経営の状況

○施設・設備の状況

教職員、生徒、保護者ともに施設・設備の状況に対する満足度が低い。予算面など、学校単独の力では困難な面もある。ただ、日常的な点検を欠かさず行うなど、努力できることはある。また、生徒の安全かつ充実した学習環境のため、校舎の維持管理については、適切な計画をたてて対応していく必要もあるといえる。

○学校に関する情報公開の状況

保護者からの学校評価アンケートの回収率の低さや、学校の取り組む教育活動への理解が十分ではないことから、保護者に対する情報提供や説明により改善を図る必要が感じられる。すでに、保護者の学校への理解が十分とはいえない状況を打開する手立ての一つとして、ホームページの改善を図り、5月16日にリニューアルしている。その内容にはみるべきところがあり、学校マニフェストやFAQ(よくある質問)コーナーのページはわかりやすく好感が持てる。

2 横浜市立横浜総合高等学校(書類調査日:平成21年5月22日)

講 評

自己評価について

学校評価アンケートの回収率が、教職員、生徒とも、やや低く、保護者については極端に低くなっている。これについては、三部制、単位制という形態など諸種の事情が考えられるが、学校(教職員)と生徒、保護者との一体感がもう一つということの現れとも考えられる。教育活動・学校運営に熱心に取り組んでいる教職員の意図が、生徒さらには保護者に伝わるように配慮することが期待される。

大項目1 教育活動の状況

○教育課程の状況

三部制で単位制・総合学科というユニークな形態であり、一人ひとりの意欲やスタイルを重視し、生涯を通じて自己実現を図る人の育成を中心とした独特の教育目標の達成のために、教職員が努力を重ねている点が評価できる。

○教科指導の状況

生徒の中には、大学受験に対応した教科指導を望む生徒や、基礎を徹底的にやりたいと希望する生徒などが混在している。自由で自主的な学習活動が成果を上げるためには、基礎的な学力が必要であるという点に目を向けた取組も検討されており、今後の進捗が期待される。

○特別活動・部活動の状況

ユニークな教育システムから生ずる問題として、多様な生徒へのきめ細かい対応の必要性、学校での生徒の居場所づくり、学校の特徴に対する生徒、保護者、さらには、入学希望者への周知の徹底などが完全には解決されていない課題として残っている。これに対して、生徒、保護者、教職員、学校評価委員などで構成される三者懇談会では、生徒の声を学校づくりに反映させることなどを検討している。また、教職員、管理職の計13名で構成する未来構想委員会では、ホームルームの教育課程上への効果的な位置付けをすることなどを検討している。そして、これらの点について、学校・教職員はすでに認識を深めており、今後更なる具体的な対処とその成果が期待される。

大項目2 学校経営の状況

○組織運営の状況

前年度の反省を基に、年度当初に重点目標やその具体的な手だてを策定して校務を遂行している。しかし、80余名の教職員が、前勤務と後勤務に分かれ、会議時間も十分に取れないという課題がある。また、校務分掌の人員構成や人数配置に関しても検討すべきことが残されている。今後は未来構想委員会を中心に意見集約を行い、よりよい組織運営について検討を進めていく必要がある。そして、PDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルにより、常に検証を行う必要がある。

○情報管理の状況

情報機器の利用や個人情報保護等の情報の取り扱いについては、学校としてはその重要性を強く認識して取り組んでおり、情報をいかに正しく、有効に利用するかがますます重視されるこれからの社会にとって望ましい方向でもあり、生徒や保護者への一層の浸透が期待される。

3 横浜市立鶴見工業高等学校(書類調査日:平成21年5月22日)

講 評

自己評価について

今年度から新入生の募集は停止しているが、生徒による学校評価、授業評価の回収率が91.6%、教職員による学校評価の回収率が100%など、学校評価の取組が積極的である点は評価できる。

大項目1 教育活動の状況

○教育課程の状況

学校教育目標の達成に向けて、基礎的学力の定着、資格取得のための学力強化、座学と実習の関連づけ、進路指導など、教職員は熱心に教育に取り組んでいる。

○教科指導の状況

生徒が苦手とする科目や新しく取り組む科目について、授業の形態や方法を工夫し、わかりやすい授業を丁寧に積み重ねようとする姿勢が認められる。また、卒業後の就職につながる、個々の適性を見極めるための体験や、資格取得などを旨とする指導が行われている点は評価できる。

○生徒指導・教育相談の状況

アンケート結果では、生徒指導・教育相談に関する回答で否定的なものが多く、肯定的な意見が5割に満たないものが多いことから、問題点がいくつか認識されるが、学校の「すべての職員が教育相談の窓口」であるとの基本姿勢は高く評価されるので、その方向を堅持し、さらに、推し進めていただきたい。

○環境教育の状況

環境教育の一環として、リサイクルや環境美化に力を入れていることが評価できる。とりわけ、生産や加工に関わる分野を専門とする生徒が多いので、この意識を将来的にも持ち続けるよう一層の努力が望まれる。昨年に比べ否定的な意見は減少しているものの、未だ校内美化については否定的な意見が見られることから、更なる意識の向上が望まれる。

大項目2 学校経営の状況

○組織運営の状況

とかく学科ごとの縦割りになりやすい状況への対策として、校内組織の改編や特別活動、部活動の活性化を図ろうとする努力が認められる。

○保護者・地域住民等との連携協力の状況

下野谷小学校、潮田中学校などとの協力体制は円滑であり、また、生徒会役員や「鶴工が一でいあんず」(下野谷小学校の児童の登下校を見守る活動を行っている生徒の自主的組織)など、地域の小中学校との交流も高く評価することができる。

○学校に関する情報公開の状況

教職員の教育改善に向けての取組が、生徒に必ずしも理解されておらず、評価されていない現状が伺われる。また、保護者についても同様と判断される。改善策としてあげられているように、生徒に対する説明や情報提供、保護者に対する直接的コンタクトなどの方策が効果を上げていくことが期待される。徐々に改善、向上の兆しが認められるが、さらに成果を上げることが望まれる。

4 横浜市立金沢高等学校(書類調査日:平成21年5月22日)

講 評

自己評価について

学校評議員の意見を参考にしての学校版マニフェストの制定、教職員のアンケート回収率100%など、教職員による学校評価への取組が積極的である。また、平成20年度の生徒による授業評価などの学校評価結果がホームページで詳細に報告されている点は評価できる。

大項目1 教育活動の状況

○教育課程の状況

教育課程の状況については、平成19年度より学力向上研究指定校になったこともあり、必要な科目の設定や授業の改善が行われ、多くのテストの導入による学習効果の測定の試みなど教職員の積極性が伺われ、生徒も概ね肯定的に捉えられている。ただ、選択した科目の履修の放棄や組み合わせによって空き時間ができてしまうなどの課題の改善が必要である。

○教科指導の状況

家庭学習不足という状況が指摘されているが、学習の習慣、意欲的な学習への取組は、まず、学校での授業で生徒の意欲を喚起し、積極的な参加のもとに展開させるものにするということを基盤にしていくことが必要である。その上で、家庭での学習につなげることができないと、学力の向上につながらないと考え。入学時から予習・復習の大切さを指導するとともに、予習・復習を前提とした授業作りに取り組んでいることは評価できる。ただし、積極的に参加できるような授業が展開されているかということについて、4割が否定的な状況であることは、生徒の活動を主体とした学習が展開されていない懸念があり、組織的な授業改善の取組みに意を注ぐべきと考えられる。

○生徒指導・教育相談の状況

教職員自らが、生徒指導に対して組織的な対応がしきれていないと捉えていることは大きな課題であり、このことは生徒からの評価にも現れている。生徒と向き合う時間を確保することは、多くの高校で共通する課題であると考えられるが、教職員の熱意に託するだけでなく、組織としてどう保障していくかなど、運営面の改善を含め今後の対応を学校全体として検討してほしい。

○環境教育の状況

環境教育の取組は、重点的な課題として取り上げ、グリーンカーテンの試行など様々な工夫がされており、学校として積極的に推進している。しかし、生徒の環境美化に対する意識について評価が低い状況にあり、すべての教科の授業を含めた教育活動全体の中で、更に環境教育を意識した取組を進めることが求められる。

大項目2 学校経営の状況

○組織運営の状況

学校評価を通じて、今後の学校運営のための課題を明確にし、重点的に推進すべき項目を共通に理解した取組を進めるなど、学校のビジョンをさらに鮮明にしていくことが求められる。また、近年は教職員が取り組むべき課題が山積しており多忙になっていることが伺われる。仕事が、一部の教職員に偏ることがないよう、コミュニケーションの強化が望まれる。

○学校に関する情報公開の状況

金沢高校は地域外から通う生徒が3～4割おり、中学生が広く金沢高校の情報に触れられるよう、学校説明会や広報活動など様々な方法で機会を提供する必要がある。しかし、生徒のアンケート項目「学校説明会・広報活動に力を入れていますか」では否定的な意見も4割ほど見られるため、更に充実させていくこと

が課題となるだろう。

5 横浜市立南高等学校(書類調査日:平成21年5月22日)

講 評

自己評価について

平成16年度に学校評価システム研究モデル校に指定されて以来の蓄積が生かされ、重厚な学校評価のまとめとなっており、積極的に学校評価の内容を活用している様子も伺えたが、担当者の苦労や負担感が感じられた。また、教職員の回収率が少し低いことについては原因を分析しておく必要があると思われる。これまで熱心に学校評価に取り組まれてきた経験を活かし、評価活動の水準を保ちつつ、活動の負担を減らすことについても南高には先進的に取り組んで欲しい。

大項目1 教育活動の状況

○教育課程の状況

教育課程の状況については、生徒の満足度も高く、単位制による大幅な選択科目の設置による興味・関心に応じた教育課程の運営が成果をあげていると捉えることができる。

○教科指導の状況

授業力についての職員間の共通理解・相互理解を深めることを目標の1つに掲げ、生徒がわかる授業の確立、生徒が興味を持つ授業の確立に取り組んでいる。授業科目の設定や教員の授業への取組に関しての生徒の満足度は高いものの、理解や習得の状況が十分でないと感じている。理解度・習得度が低い要因として、家庭学習の少なさが挙げられる。これに対しては、業者模試・スタディーサポートの導入、活用など改善が見られるが、更なる工夫を考える必要があるだろう。生徒による授業評価では、教科の特性があると思うが、肯定的な評価が低い教科が見られるので、授業力についての共通理解という目標に対して学校全体として、より一層の取組を進めていく必要がある。

○進路指導の状況

教職員が親身になって生徒一人ひとりに対応しているということに対する生徒の評価は、目標値を下回る項目もみられ、保護者の調査結果からも、一丸となって指導がされているということに対する評価が低くなっている。会議や業務が増え、生徒にかかわる時間の減少は課題であり、学校の運営面の改善も考えながら、対応を検討していくことが望まれる。

○特別活動・部活動の状況

学校行事や部活動への生徒の参加率が高く、活動内容も教職員の熱心な指導と、施設の充実により支えられ、満足度の高いものとなっており、この点は評価できる。

大項目2 学校経営の状況

○教育目標の設定・実施状況

市立高校の普通科がすべて単位制のしくみを取り、多様な生徒の学習ニーズに対応するなかで、「南」としての特色がまだ鮮明にはなっていない状況にある。学力伸長のための取組が、生徒の持っている力に依存してしまう傾向を避けるため、真の学力の定着のために、生徒の活動を主体に据えた授業改善の取組や教育目標としての自主・自立の精神の涵養のために、自己を見つめ、将来を考える活動としてのキャリア学習などの充実が望まれる。

○組織運営の状況

組織運営については、教職員の入れ替わりが多く、教職員全体の共通理解や協力関係がなかなか取れていない状況が見られる。今後、南高校の特徴を發揮できるようにするため、管理職の強いリーダーシップの下、必要な人材の長期残留など異動制度の弾力的な運用や、教科職員室を結ぶ校内ランの活用により教職員相互のコミュニケーションを図るなど、積極的な改善を期待したい。

6 横浜市立横浜商業高等学校別科(書類調査日:平成21年5月22日)

講 評

自己評価について

教育目標に基づく7つの教育方針が明解であり、それに沿った自己評価が行われている。生徒からのアンケート回収率も高いが、保護者からの回収率に課題が残る。

大項目1 教育活動の状況

○教育課程の状況

教育課程の状況については、別科のもつ特性を十分に意識した教育課程の編成がなされ、卒業に必要な授業時間数の実現など、きちんとした取組が進められている。しかしながら、新教育課程に対する職員の理解が十分でないという状況は、その運用面においてもっとも危惧しなければならない点となっている。非常勤講師も多いが、統一した指導を行うため、生徒の指導にあたる教職員全員が、規定等を十分に理解し、各学習活動の目標を意識した展開ができるよう、理解を深める機会の設定や校内研修の充実を考えていくことが必要である。

○教科指導の状況

実習に関しては生徒も意欲的で成果が見られるが、座学に対しては意欲を持っていないという状況が報告されている。懸案の座学について、どのように技術の向上に結びつくかを常に意識させることや社会実践力としての意義など、その学習の位置づけや学習目標を明確に意識させる具体的な指導を期待したい。ただし、学力の開きに応じた個別指導の対応など、学校としての取組は評価できるものであり、今後、個に応じた指導を授業展開の中で具現化するための方法などについて検討を進めてほしい。

○進路指導の状況

進路専任がないという組織でありながら、就職100%の実現を図るなど、その対応は評価できる。ただ、進路説明会やガイダンスなど進路指導の充実という点については、4割が否定的な回答であることは、生徒の進路に対する不安が大きいことを示しており、指導体制等の課題として捉えていく必要がある。専門的な技術や知識、社会人としての礼儀や規範意識の裏づけが、確かな進路、将来の生活につながることを常に意識させ、出口の保証という点だけでなく、入学時の意欲を継続し、自らの将来設計を盛り込んだキャリア教育などの取組を充実させてほしい。

大項目2 学校経営の状況

○教育目標の設定・実施状況

教育目標や教育方針について、教職員は高く評価し保護者にも概ね支持されているが、生徒への周知に問題が残っており、今後の課題であろう。

○危機管理の状況

保護者の災害・防犯対策について心配を示す数値が高く、生徒もまた危惧を抱いている様子が伺われ、原因の究明と改善が必要である。

○学校に関する情報公開の状況

学校として重点項目に位置付けており、ホームページに公開されている生徒のそれぞれの履修科目等の評価に、自分自身および授業や教員についての評価、分析、課題と改善策などの詳細な情報が示されており、保護者の評価は高い。また、生徒数が少ないという利点を生かし、機関紙などを配達記録便で年数回送付しているなど、学校情報の公開に積極的に努めている点も評価できる。今後は、別科の特性を十分に活用できる意識をもった生徒の募集のための広報のあり方を充実させてほしい。

7 横浜市立東高等学校(書類調査日:平成21年5月22日)

講 評

自己評価について

教職員のアンケート回収率100%、生徒のアンケート回答率97.6%という数値が、学校への愛着の強さを示している。また、保護者のアンケート回答率89.8%という高さから、学校の教育活動への関心の高さを読みとることができる。

大項目1 教育活動の状況

○教科指導の状況

平成19年度より授業改善プログラムを立ち上げ、全教科・全教員での研究授業が実施されており、教員の高い意欲を感じ取ることができる。その結果、生徒の授業評価において、3年生の選択科目で肯定的な回答が70%を超えているものも多い。一方で、共通の10の質問項目のうち、生徒の肯定的回答が70%に達していない項目が7つあるなどの課題もある。生徒の学習意欲の向上につなげ、東高生が持っている力をより一層伸ばしてほしい。また、家庭学習の重要性を指導していくなかで、自主的に学習する姿勢を育てていくことを期待する。

○進路指導の状況

大学進学を目指す生徒が、自分に必要な科目や興味のある科目を選択し、授業に対して積極的に取り組んでいる様子が見える。しかし一方で、生徒に家庭学習の習慣が身に付いていないという課題も明確になっている。校内で実施する進路指導の説明会やガイダンスの時期や内容について、今後さらに検討していく必要がある。そして、全ての生徒が、希望する進路を実現できることを期待したい。

○特別活動・部活動の状況

特別活動を学校教育活動の柱の一つとして位置付け、学校行事や生徒会活動などの生徒の主体的な活動を支援・指導している。また、生徒は部活動にも積極的に参加しており、意欲的に取り組んでいる様子が伺われる。活発な学校という印象を受ける。教職員、生徒、保護者ともに、特別活動と部活動については非常に高く評価をしており、学校経営上のねらいが顕著に現れていると言える。

大項目2 学校経営の状況

○組織運営の状況

教職員、生徒、保護者に対して、経営方針や運営方針の理解を図る取組が少ないように感じられる。その結果、教職員による学校評価において経営方針等の共通理解や教職員の協力体制に関する項目は低い数値となっている。今後、経営方針等の周知のために、諸会議の有効な活用に努める必要がある。

○保護者・地域住民等との連携協力の状況

学校行事等への地域の方の招待、地域の防災訓練等への生徒の参加、地域ケアセンターや作業所との交流など、地域に根ざした学校教育を積極的に進めているにもかかわらず、アンケート結果では十分な結果が得られていない。生徒、保護者の評価を見ても、広報活動に関しては低い評価となっている。こうしたことから、地域との関係・連携を積極的にアピールする広報活動が必要である。今後、地域に根ざした地道な活動を継続するとともに、ホームページを一層充実させることが、近隣の子どもたちの東高校への理解に繋がっていくのではないかと思う。

8 横浜市立戸塚高等学校定時制(書類調査日:平成21年5月22日)

講 評

自己評価について

アンケート回収率が教職員100%、生徒90.7%と高い割合を示しているが、保護者の回収率が低い。これについては、定時制という課程の中なかで、難しい点があると思われるが、学校としての取組をもっと保護者に知ってもらう必要があると思われる。

大項目1 教育活動の状況

○教育課程の状況

1・2年生には基礎基本の科目を設置し、3・4年生には多様な生徒に対応できるように選択科目を中心に設置するなど、基礎基本の定着を図ってから選択科目を実施するという発展していく教育課程となっており、生徒の個性に応じた編成となっている。ただ、教職員数の関係で、生徒が希望した科目を受講することができず、他の科目を選択しなければならない状況がある点は残念である。

○進路指導の状況

基礎学力の定着、様々な体験学習を通しての豊かな人間性の形成、職業観・勤労観の育成という3つの重点目標を柱として、各学年に適したガイダンス活動を展開している。より一層の充実を図るためには、教職員間の共通理解をもって、4年間を見据えてのさらなる系統だった流れを作る必要がある。

○生徒指導・教育相談の状況

生徒と教職員のコミュニケーションを図る取組は、教職員が個々の子どもたちの現状を把握・尊重し、情報を共有し合いながら対応している前向きな姿が伺われ、生徒の評価も良く、素晴らしい内容だと思う。教職員全体で校内巡視の取組を継続し、安心して生活できる落ち着いた学習環境づくりを行うなど、教職員のまとまりも感じられる。しかし、様々な現場で人手が不足しているように、これに関しては、子どもたちと話し、導いてくれる大人を欠かさないためにも、様々な分野から可能な限りの協力者を募る必要がある。

大項目2 学校経営の状況

○教育目標の設定・実施状況

生徒への教育目標の周知が十分でないようであるが、保護者への周知は行われているようであり、生徒にも自ずと周知できるものとする。また、日々の教職員の教育活動に関しては目標を意識して行われているだけに、十分に教育目標を理解した上で実践することが大切である。

○教職員の資質向上に向けた取組状況

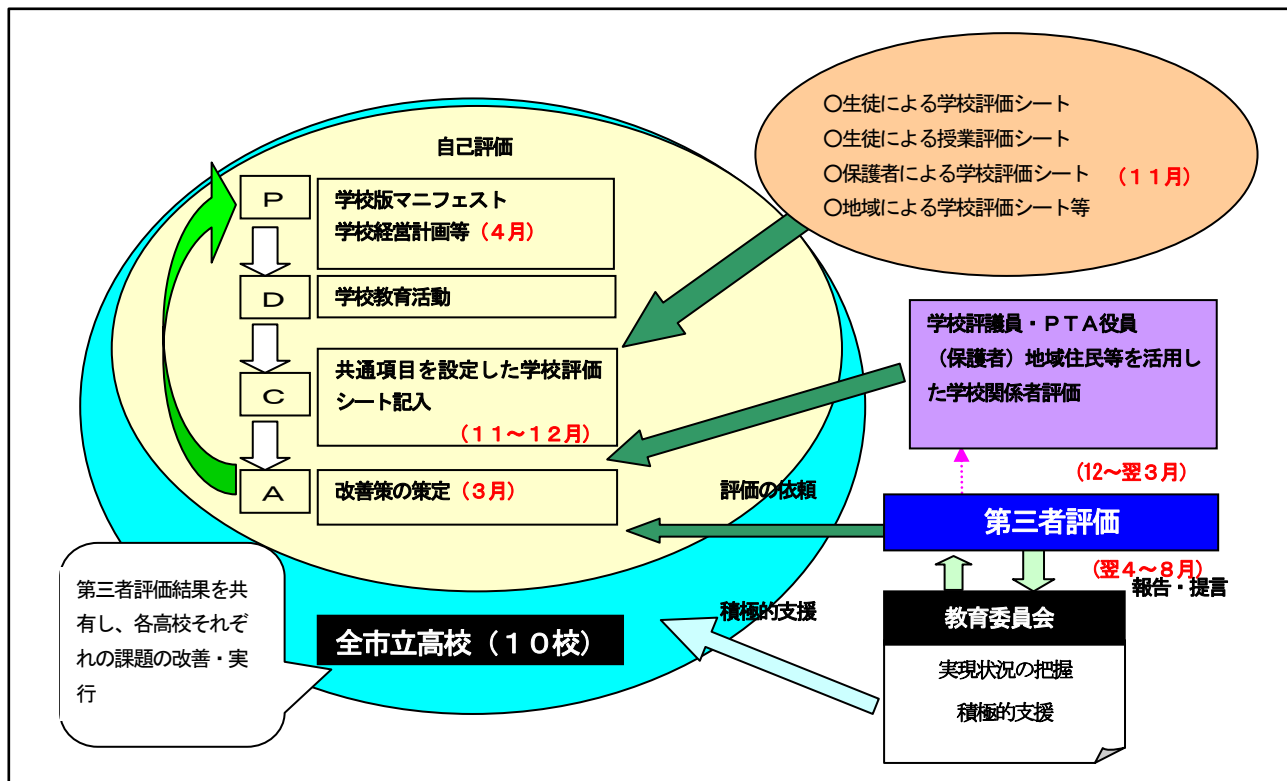
教職員間の情報共有など、信頼関係を構築し、教職員が相互に理解しあって日常の教育活動にあたることができている点が評価できる。

○保護者・地域住民等との連携協力の状況

地域の中に根ざす学校づくりのための『まち懇(まちとともに歩む学校づくり懇話会)』で、より理解を得られるよう生徒たちの地域活動への参加や協力など、学校とまちが相互理解できるシステム作りが必要であり、相互理解が教育への支援につながると思う。また、学校の特性を活かした地域活動への参加に期待したい。

Ⅲ 参考

1 横浜市立高等学校評価の体系図



2 横浜市立高等学校評価委員会 委員構成(委員は50音順)

| | 氏名 | 所属等 |
|------|-------|----------------------------|
| 委員長 | 小松 郁夫 | 玉川大学教職大学院教授 |
| 副委員長 | 千賀 重義 | 横浜市立大学名誉教授 |
| 副委員長 | 上野 淳 | 首都大学東京大学院教授 |
| 委員 | 石井 紀光 | 横浜青年会議所 監事 |
| | 石井 秀明 | 横浜市立中学校長会(共進中学校長) |
| | 落合 優 | 横浜国立大学教育人間科学部教授 |
| | 田中 時義 | 神奈川県立横浜緑園総合高等学校学校長 |
| | 遠又 安雄 | 横浜市磯子センター館長(元横浜市立高等学校校長会長) |
| | 長島 由佳 | 横浜市PTA連絡協議会 副会長 |

3 訪問調査・書類調査担当校一覧(委員は50音順)

1班

- (1) 訪問調査校
横浜市立みなと総合高等学校
- (2) 書類調査校
横浜市立桜丘高等学校
横浜市立横浜総合高等学校
横浜市立鶴見工業高等学校

| | 氏名 | 所属等 |
|------|-------|-----------------|
| 副委員長 | 上野 淳 | 首都大学東京大学院教授 |
| 委員 | 石井 紀光 | 横浜青年会議所 監事 |
| | 落合 優 | 横浜国立大学教育人間科学部教授 |

2班

- (1) 訪問調査校
横浜市立横浜商業高等学校
- (2) 書類調査校
横浜市立金沢高等学校
横浜市立南高等学校
横浜市立横浜商業高等学校別科

| | 氏名 | 所属等 |
|------|-------|----------------------------|
| 副委員長 | 千賀 重義 | 横浜市立大学名誉教授 |
| 委員 | 田中 時義 | 神奈川県立横浜緑園総合高等学校学校長 |
| | 遠又 安雄 | 横浜市磯子センター館長(元横浜市立高等学校校長会長) |

3班

- (1) 訪問調査校
横浜市立戸塚高等学校
- (2) 書類調査校
横浜市立東高等学校
横浜市立戸塚高等学校定時制

| | 氏名 | 所属等 |
|-----|-------|-------------------|
| 委員長 | 小松 郁夫 | 玉川大学教職大学院教授 |
| 委員 | 石井 秀明 | 横浜市立中学校長会(共進中学校長) |
| | 長島 由佳 | 横浜市PTA連絡協議会 副会長 |